

特集

アート脳の達人たち

元Apple社デザインエンジニアの  
デザイン哲学

Weber Workshops代表 ダグラス・ウェバー



# Douglas Weber

アップル社では  
デザイナーはエンジニアの知識を  
エンジニアはデザイナーの感性を  
求められた。

ダグラス・ウェバー ・ Weber Workshops代表

1979年、アメリカ・ロサンゼルス生まれ。  
幼少時より近所に住む日本人一家との交流を通じて日本文化に興味を持つ。  
外科医を目指しスタンフォード大学に入学するが、メカニカルエンジニアリングに興味を持ち進路を変更。在学中に京都大学と九州大学に留学生として来日。卒業後、アップル社に入社。故・スティーブ・ジョブズ氏の下でiPhoneなどの開発に携わる。13年間勤務の後、独立。留学時代に3年間を過ごした福岡に移住しWeber Workshopsを起業。手始めに好きなコーヒーへの思いを込めたコーヒングライnderの開発を手掛け台湾に生産工場を築き、福岡市内には2軒のコーヒーションップ“KAMAKIRI COFFEE”を開店している。留学時代、陶芸に明け暮れていた糸島に居を構え、世界を見据えた活動を準備している。



## Douglas Weber

ロサンゼルスで生まれ育ったダグラスさんが、日本に興味をもったきっかけは、子どもの頃と近所に住んでいた「田中さん一家」の影響。幼い頃から日本文化に傾き込んだおかげで、日本語もとても流暢です。外科医を目指しスタンフォード大学へ入学するものの、大学1年生の時に受講したメカニカルエンジニアリングの講義に感銘を受け、進路をすぐに変更したそうです。卒業後は、世界を回り続けるアップルの技術者としてカリフォルニアの第一線で活躍されます。スティーブ・ジョブズ氏の下「iPhone」など話題のプロダクト開発に十数年間携わった後、独立。大学時代に留学経験を利用して3年間通じて不規則、女々でも自然豊かな糸島の地に移住を決意。コーヒー愛好家の思いを込めたコーヒー・クラウンダーをはじめとするプロダクトを手掛けるWeber Workshops (ウェバー・ワークショップ) を起業されました。自らつくったモノを携え、糸島を拠点にしながらも世界を股にかけて活躍されています。そんなダグラスさんのモノづくりに関する興味、意欲、向き合い方など幅広いお話を伺ってみました。



一度手にしたら一生使える  
賞味期限のないプロダクトを。



モノづくりに目覚めたきっかけは、中学時代に体験した陶芸が大きいです。校内に好きな時間に、自由にぐるぐる回せる環境があったんですよ。おかげでモノづくりに興味を持って、作ったモノを評価してもらえる環境があったのも自分を伸ばしてくれたと思います。アメリカの場合、自分の進路は大学入学後に決めます。スタンフォード大学に入学した当初は、メカニカルの道に進もうとしていましたが、あまり面白くないと思えなかった。



逆にメカニカル・エンジニアリングの授業内容は、とても楽しかったですね。例えば、ある限られた資料を活用して問題を解決しなくちゃいけないというような課題がありました。こうした課題を苦手にする学生も多かったのですが、自分は、段階に沿って解決していくのがとても

楽しく、いい成績が残せました。一時期は、医療とエンジニアの道を融合させることも考えましたが、医療機器は商品化までの道のりが長く「そのスピード感とは自分には合わないのでは?」という懸念、問題、課題を発見してそれをプロダクト化するまでの流れをスピードに追いつく道を探して、アップルでインターンを経験しました。そのコネクションが役立ったというわけです。しかし、スタンフォード卒業後、一度はアップルからのオファーをお断りして、文科省からの奨学金で九州大学へ留学しました。本書を言いますと「日本で陶芸を勉強したい!」という思いがあり勉学以上に、福岡では糸島の陶芸家を訪ねる日々でした。存分に陶芸と日本を満喫して帰国後、再びアップルから機会を頂き働くことになりました。

いつかは独立と思っていましたが、アップルでの仕事が目白だったので、在職期間は13年になりました。「なぜコーヒー・クラウンダーを作ることになったのか?」って質問は、どこ



かたくさん聞かれますね。シリコンバレーの技術者は、お気に入りのカフェで極上のコーヒーを飲んでから出社するのがスタイル。その辺のって自分もコーヒーにハマったのですが、飲み物としての美味しさはもちろんなのですが、コーヒーを淹れる機械にも同時にハマっていた感じです。エンジニアとして、道具と戯れながら美味しいのが作れるというのが魅力的でした。モノづくりに関して自分が興味をもっているのは、「賞味期限のないプロダクト」です。何をつくるにしても、それを手にしたら一生使える



台湾に設立されたコーヒー・クラウンダーの工場。

ようなスタンスでモノづくりに取り組みたい。ヴィンテージのポルシェなんてまさにそう。ずっと変わらぬ本質的な魅力がありますよね。

デザインとは、美的感覚を持ち合わせた、設計できるものだと考えています。それは、ジャンルを問いませんが、唯一デザインできないのが自然です。デザインは、自然には勝てない。デザインを脚色と勘違いしている人もいますが、美しさは、何かを加えるものではなく、無駄を加えないところにあると思っています。だから、突き詰めてきたのは、自然とうまく調和する工業デザインです。デザインに関わる人間として、そんな視点をもったプロダクト開発にこれからも挑戦していきたいと思っています。



独自に開発したコーヒー・クラウンダー。



アップル社時代、(中央のサンクラスダグラス氏)



開発の一部を手がけたiPhoneを手に。



福岡市内に開設したコーヒーショップ。



時代に切り込む  
ナイフのように。



「インド展覧」より / Toshiya Momose

